高き志【こころざし】

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

No.８（R元．6．6発行）文責 校長 福田雅也

子どもは親のやったとおりに育つ

現在２５歳になる私の一人息子は、会社員をやっています。同居しているのですが、家庭内では、ほとんど会話もなく、自分の部屋で動画を見たりゲームをしたりしている状況です。休日前は出て行ったきり帰ってこないことも多くあるような始末。会社できちんと仕事しているのかどうか心配です。

結果には原因があります。…我が子育てを反省するばかりです。

また、彼は私の職業である「教師」を選びませんでした。むしろ「教師にだけはならない。」と断言していました。加えて、私がやってきたスポーツである「バレーボール」も選ばず、「バスケットボール」に熱中しました。高校受験においても、私が卒業した高校は、意図的に選択肢に入れませんでした。

ことごとく、私の思ったようには、やってくれなかったのです。私のずぼらな面やいい加減な面ばかりが似てしまったようなのです。

「子どもは親のやったとおりに育つ。思ったとおりには育たない。」　これは、講演等様々な活動をされている阿蘇市在住の田端さんという方の言葉です。まさに、身をもってこの言葉の重さを感じています。

少し前のこと、とても素敵な詩に出会いました。それは、つぎのような詩です。

小さな一枚の紙
熊本市立江南中学校　三年
川上　桃音

「おつりばなおしとって。」
父は運転中
だから私は代わりになおした
「あっ。これ！」
小銭と小銭の間に
何か見覚えのあるものが…
ちらっと見えた文字を読む
ぎこちないひらがなで
”おしごとがんばってね　”
だったかな？
そう書いてあった
もう何年前だろう
父はずっと財布の中に
入れてくれていたみたい
ものすごくうれしかった
いつもこれを見て頑張っているのかな

「あっ。そうだ！」
まだ父の日のプレゼントを決めていない
遅くなったけど今年はこれを贈ろう
あのときのように
”お仕事頑張ってね　”
それと
”ありがとう　”
と書いた紙を

この詩は、平成２６年度のKAB熊本朝日放送主催「こどもの詩（ポエム）コンクール」において、「熊本朝日放送賞」を受賞した作品です。（掲載許可取得）

とても素敵な詩だと思いませんか。子どもからの贈り物を大切にしているお父さんの心優しい面が、そのまま、作者の優しい行動につながっているのでしょう。しかも、「おしごとがんばってね」が漢字に変わり、「ありがとう」が書き加えられているところに、作者の成長を感じることができます。素敵なお父さんのもとで、素敵な娘さんが育ったことが、じんわりと伝わってくる素晴らしい作品です。

「親のやったとおりに育った」作者だからこそ、書けた作品なのでしょう。

そう考えながら、これまで何度もあった父の日に加え、もうすぐ来る今年の「父の日」も、特別何事もないであろう自分は、「自業自得」だな…と反省するしかない私でした。

お知らせとお礼

校区内にお住まいの元御船町町議会議員　沖　徹信　様から、町教育委員会を通じて多大なるご寄付をいただきました。子供たちの健やかな成長のために活用させていただきたいと思います。

保護者の方々、地域の方々にお知らせいたしますとともに、心から御礼申し上げます。

ありがとうございました。